

令和7年度 全国学力・学習状況調査結果

この調査は、令和7年度の6年生児童を対象に実施したのですが、本校児童全体の傾向であるとも捉え、今回の調査結果や児童アンケート、諸テストなどの結果を分析することで課題を明確にし、教育活動全体における指導改善に活かしていきます。

<学習面の調査結果を通して>

今年度の結果を分析しますと、日常の学習の中で、課題探究的な学習を積み重ね、「知識・技能」の習得、「思考・判断・表現」ともに十分身に付いているという結果となっています。特に、算数においては、全国平均を大きく上回っており、各学年で学習してきたことが確かな学びとなっているようです。ただ、「記述で回答する」ということに関しては、やや課題も見られましたので、今後の学習の中で、どのように「書くこと」の力を身に付けさせていくのかを考え、後期の学習指導に生かしたいと思っています。

それでは、各教科についての分析をお知らせします。今年度は、国語、算数、理科の3教科での調査でしたので、それぞれ分析しています。

	本校の概要	今回の調査における課題	改善の方向
国 語	<p><領域></p> <p><input type="checkbox"/> 「言葉の特徴や使い方に関する事項」は、全国平均と同程度である。</p> <p><input type="checkbox"/> 「書くこと」は、全国平均よりやや上回っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」「話すこと・聞くこと」「読むこと」は、全国平均より上回っている。</p> <p><評価の観点></p> <p><input type="checkbox"/> 「知識・技能」「指向・判断・表現」ともに、全国平均を上回っている。</p> <p><問題形式></p> <p><input type="checkbox"/> 「選択式」は全国平均より上回っている、「短答式」は、全国平均よりやや上回っている。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 「記述式」は、全国平均より下回っている。</p>	<p>(書くこと)</p> <p>■目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように工夫する。</p> <p>■目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を選択して書く。</p>	<p>○学習のまとめでは、キーワードを取り入れて自分の考えをまとめるようにする。</p> <p>○図表から考えられることなどを文章でまとめるような経験を積む。</p>

	本校の概要	今回の調査における課題	改善の方向
算 数	<p><領域></p> <p><input type="checkbox"/>「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」の全てが、全国平均より上回っている。</p> <p><評価の観点></p> <p><input type="checkbox"/>「知識・技能」「思考・判断・表現」ともに、全国平均より上回っている。</p> <p><問題形式></p> <p><input type="checkbox"/>「選択式」「短答式」「記述式」ともに、全国平均より上回っている。</p>	<p>(知識・技能)</p> <p>■角の大きさについて理解している。</p> <p>■はかりのめもりを読むことができる。</p>	<p>○4年生の「角」の学習時において、角を構成している直線を伸ばしても角の大きさが変わらないことを体験する学習の場を設定する。</p> <p>○問題文と図や絵などを結び付けて、問題の意味を捉える場を授業の中により多く取り入れる。</p>

	本校の概要	今回の調査における課題	改善の方向
理 科	<p><領域></p> <p><input type="checkbox"/>「粒子」を柱とする領域、「地球」を柱とする領域は、全国平均よりやや上回っている。</p> <p><input type="checkbox"/>「エネルギー」を柱とする領域は、全国平均とほぼ同程度である。</p> <p>■「生命」を柱とする領域は、全国平均よりやや下回っている。</p> <p><評価の観点></p> <p><input type="checkbox"/>「知識・技能」は、全国平均よりやや上回っている。</p> <p><input type="checkbox"/>「思考・判断・表現」は、全国平均とほぼ同程度である。</p> <p><問題形式></p> <p><input type="checkbox"/>「短答式」は、全国平均より上回っている、「選択式」は、全国平均とほぼ同程度である。</p> <p>■「記述式」は、全国平均を下回っている。</p>	<p>(知識・技能)</p> <p>■身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引きつけられる物があることについて理解している。</p> <p>■ハチマの花のつくりや受粉について理解している。</p> <p>■氷がとけてできた水が流れていくことの根拠について、理科で学習したことと関連づけて、知識を概念的に理解している。</p> <p>(思考・判断・表現)</p> <p>■電気の回路のつくり方について、実験の方法を発想し、表現する。</p> <p>■発芽するために必要な条件について、実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現する。</p> <p>■レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現する。</p> <p>■「水は温まると体積が増える」を根拠に、海面水位の上昇した理由を予想し、表現する。</p>	<p>○金属での通電や磁化に興味をもたせ、実験を繰り返し行うことで深く理解できるようにする。</p> <p>○花のつくりや受粉などに興味をもたせ、観察を繰り返し行うことで深く理解できるようにする。</p> <p>○問題解決を通して習得した知識を活用して、学習の成果を日常生活との関わりの中で捉え直す場面を設定することにより、知識をより深く理解できるようにする。</p> <p>○目的に応じた実験を繰り返し行い、問題を解決する活動を充実させる。</p> <p>○目的に応じた実験に対し、変化させる条件と変化させない条件を明確にして見通しをもった活動を充実させる。</p> <p>○自分や他者の気づきを基に差異点や共通点を捉え、新たな問題を見だし観察、実験などの方法を具体的に見通して表現する活動を充実させる。</p> <p>○既習事項を基に自分の考えをもち、それらを話し合う場面を設定し、より妥当な考えをつくり出すことができるようにする。</p>

◎児童質問紙調査結果より

★生活リズムに関して

- 寝る時刻はある程度決まっているが、朝起きる時刻が定まっていない子が一定数いる。
- 朝食を抜く子が全国と比べ、やや多い。

家庭では、生活リズムを整えられるよう支えてくれていると思いますが、高学年になり、夜遅くまで起きている子ども少しずつ増えているのではないかと思います。十分な睡眠は、学力向上につながるというデータもありますので、十分な睡眠がとれるよう、ご家庭での声かけをお願いします。また、朝起きられない子は、朝食を抜く傾向もありますので、「早寝・早起き・朝ごはん」の大切さを、学校でも指導するようにします。

★自己に関して

- 「先生が自分のよいところを認めてくれている」と思っている子がやや多い。
- 「人が困っているときは、進んで助けよう」「人の役に立つ人間になりたい」と思っている子がやや多い。
- 困り事や不安があるときに、先生や学校にいる大人に相談できないと思っている子が多い。
- 友達関係に満足していない子がやや多い。
- 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることが少ない子がやや多い。

他者との関わりの中で自分の存在意義を確かめようとしている子がやや多いです。6年生となり、「みんなのために頑張りたい」と思っている子が多いのかもしれませんが、反面、友達関係に満足していない子が多く、横のつながりでは、友達に遠慮してつきあっていたり、交友関係が広がらなかつたりなどの悩みを抱えている子もいるのかもしれませんが、また、校内では、落ち着いて生活しているように見える子どもたちですが、「無理してでも頑張ろう!」と思っただけで過ごしている子も多いのかもしれませんが、子どもたちの本音を聞き取り、子どもたちに寄り添う指導を継続していきます。

★タブレット使用に関して

- PCやタブレットで文章を作成することができる。
- PCやタブレットを使用し、分からないことを調べるという習慣がついている。
- PCやタブレットは楽しみながら学習するツールであると思っている。
- PCやタブレットで画像や動画、音声を活用することでよく分かる。
- 友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる。
- PCやタブレットで情報を整理する。
- 自分の考えや意見を分かりやすく伝える。
- 友達と協力しながら学習を進める。

入学当初より、PCやタブレットを学習に活用してきているためか、十分に活用できるようすがうかがえます。ただ、どちらかというところ、個人の学習に活用することがメインとなっており、協働しながら学ぶためのツールにはなかなか至っていないと捉えます。現在、学校でも、どのようにICTのツールを学習の中で使っていくのかを研修しながら、効果的な活用方法を日々考え、学習に生かせるよう指導を工夫しています。今後も、子どもたちが協働的に学ぶために研修を積み重ねていきます。

★放課後の活動及び学習習慣に関して

- 「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫すること」があまりできないと思っている子が多い。
- 「家庭学習時間が1時間より少ない子」がかなり多い。
- 「授業時間以外に読書をしていない」「新聞を読んでいない」子が多い。
- 学習以外での地域の大人との交流は少ない。

家庭での学習時間は、全国平均と比べ少ない傾向が見られます。習い事などもあると思いますが、スマホやタブレットなどでの動画視聴の時間がかなり増えているようです。それに伴い、様々な情報を得ている様子も見られます。家庭での電子機器の使用に関しては、再度ルール作りなど、ご家庭でお子さんを一緒に話し合っただけで決めてほしいです。

学校としては、今後も、毎日家庭で学習するよう、日々の学校での学習時間に活用する「宿題」を出していきます。ドリル学習など、自分に必要な学習は何かを考え実行できるよう、継続的に声をかけていきます。

★自己の学習に関して

- 5年生までに受けた授業は、自分にあつた教え方、教材、学習時間になっていると感じている子がやや多い。
- 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる子が多い。
- 「算数の勉強が好き」と感じている子が多い。
- 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組むことがややできないと思っている子が多い。
- 国語の勉強をやや苦手と感じている子が多い。

学習に対してどちらかと言えば肯定的に捉え、まじめに取り組む子が多いです。特に、算数や道徳の学習は、国語、理科、総合（今回の質問紙にあつた教科）と比べ、熱心に取り組んでいる結果が出ています。目的をもって話し合う活動は、意欲的に取り組んでいる一方で、学級活動などで話し合ったことを自分を律して実行するという面では「できていない」と感じている子が多いようですが、これは、周りをよく見ており、「もっと自分ではできないか」と高い目標と比較しているところもあると考えられます。努力していることを周りの大人がほめたり、友達どうしでたたえ合ったりする場を増やし、自信を付けられるよう指導していきます。